



2016年9月11日 (第174号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
はじめのころ、
わたしは人を回心させなければならぬ、
と思っていました。
そして、
愛することだと分かりました。

若者たち 素晴らしい体験

WYD大会同行の諏訪司教が手記

WYDクラクフ大会参加のため、7月23日午後11時、ポーランドのキエツェ教区に着きました。深夜にもかかわらず、それぞれ花を持ち、聖書教会の方々は、明るい聖歌とダンスの中で私達を迎えてくださいました。大きなパンと少しの塩を頂き、受け入れられ「ホーンズ」からこの巡礼は始められました。ホームステイ先では全く言葉が通じない場合もありながら、互いに「心を聞きあう」素晴らしい体験の場となり、いつしか「心を聞く」がこの巡礼のサブタイトルとなりました。

恐れることなく世界を変えよう
教皇の閉幕ミサに信徒230万人



美しい大自然の懷で夜を明かす多くの青年達

キエツェ教区で3日間を過ごした後、大会の中心地クラクフ教区に移りました。ここは聖ヨハネパウロ二世教皇の故郷です。世界中の青年たちがこの教区に集います。教皇歓迎集會が始まり、大会がスタートしました。教皇は手を振り、力強く語り始めました。青年たちは各国の言葉が通訳されるラジコを握りしめ「世界を変えていくために恐れることなく主の招きに答えていただき。そして私を助けてほしい」とのメッセージに手を上げ叫び、ポーランド語で「マリアを歌い、大会の中心部に入っていきます。参加者はそれぞれの教会で自国の言葉による「神の慈しみ」を聴き、表現し、分かち合い、赦しの恵みとアドバイスを受ける日々を

美しい夕焼けを背に、教皇のメッセージと祈りが始まりました。ローソクの光しか見えなくなる頃、静寂に包まれ、青年た



聖ヨハネパウロ二世像前で

「慈しみの広場」に集まるため、炎天下の中、野宿の装備を背負い、黙々と、時には笑顔でハイタッチを交わしながら会場まで何時間も歩き続けました。会場はメイン祭壇が遠くに見えるほどの広大な原っぱで、巨大なスクリーンが3機ほど備えられてありま

人ひとを組織的に、ありとあらゆる残虐さで処刑を実行しました。高圧電線に囲まれた28棟の闇が描かれていました。なぜ優秀な学者や、知識人、哲学者、医療関係者、製薬会社がこの民族絶滅計画(ホロコースト)に賛同し、人ひとを黙認していたのでしょうか。被害者であったユダヤ人までが、なぜ仲間を苦しめる加害者となっていくのか。重苦しい問が胸に突き刺さります。しかしこれは「現代」でもありえるかも知れない苦しい問題をつきつけられた現場でした。日本から遠いポーランドは本音に美しい国です。人々には絵本にある可愛らしいお家から「ハイジ」のように飛び出してきたような素朴がありました。歴史的には周囲の国々のドイツやロシア、そして共産主義等によって何度も侵略と弾圧、さらに分断された苦しい歴史があります。

「美しい夕焼けを背に、教皇のメッセージと祈りが始まりました。ローソクの光しか見えなくなる頃、静寂に包まれ、青年た

「慈しみの広場」に集まるため、炎天下の中、野宿の装備を背負い、黙々と、時には笑顔でハイタッチを交わしながら会場まで何時間も歩き続けました。会場はメイン祭壇が遠くに見えるほどの広大な原っぱで、巨大なスクリーンが3機ほど備えられてありま

その民族と国を支えたのは「信仰」、特に「聖母マリア」への思いであったと聞かされました。どこかにも「類に二本の傷を持った黒い聖母マリア」のアイコンがあります。「マリア様はポーランドの母」と確信しておられる人々の中で国づくりと生活でした。わたしたちもその力強く明るい信仰に触れることができました。毎日たくさん優しい「おもてなし」をしてくださったホストファミリーの皆様「ありがとうごさいます」としか言えないのが本音に響かれました。この巡礼は青年たちにとって本当に素晴らしい人生の「慈しみ体験」になったと信じます。司教 諏訪繁治郎

世界中の若者と肩組んだ
多くの優しさに支えられ

このたび多大な支援を頂いてWYDに参加できたことを感謝申し上げます。多くの人の優しさに支えられ、充実した時間となりました。7月23日、大阪管区としてとまわって移動し午後11時にキエツェの教会に到着すると、深夜にもかかわらず小教区の皆さん、そしてホストマザーが温かく迎えて下さいました。その後、皆々には愛着深くサボークラクフでの本大会中は、日本巡礼団としてまとまり、班に分かれて活動しました。各管区のカテケシスと班別に分かち合いもあり、「体験に隠れた慈しみ」や「打算抜き慈しみの行い」が心に残りました。

近くでパパ様に会った
たくさんの体験を学びあった

今回WYDに参加させていただき、たくさんのご経験をありがとうございました。23日夜遅くに迎えた私達を笑顔で暖かく迎えてくれたキエツェ教区の皆さんの優しさや、ホームステイ先では英語も通じない中、私たちのことを気にかけてくださったことに、神のいつくしみを感ずりました。そしてキエツェ教区の青年たちと歌を唄ったり、歌に合せて踊ったりと笑顔の絶えない3日間でした。26日、名残惜しい中、キエツェ教区を出発し開催地クラクフへ移動しました。ここで日本各管区からの参加者が集まり、結団式を



教皇歓迎式典後の舞台上、日の丸を持つ筆者

そして、大会中何度も語って下さった教皇様は、お疲れの中、「あなたは愛されている」等の力強いメッセージを最後まで下さいました。本大会後のアウシュビッツ強制収容所見学は、心重く感じましたが、貴重な時間でした。71年前、この同じ場所で、連行された人々が惨殺されました。それが他人事ではないこと、そして、権力構造の下で、同じように私達が生きていく現実を、思います。しかし、コルベ神父様の証や、命がけで脱走者を匿った方がいた

31日は教皇式典の閉会ミサから始まった1日でした。気温の高い中、各国の祈りの雰囲気を感じながらWYDが終わりました。オプショナルツアー1日はナチスの強制収容所、アウシュビッツの見学へいきました。人間の怖さ・闇を感じました。建物の中は見れませんが、そこを歩き、建物の外観を見るだけで悲惨さを感じました。この2週間の1日1日がとても濃く、たくさんを経験させて下さいました。また、現地の人たちの優しさに触れることができ、出発前日まで不安だったWYDでしたが、背中を押して下さった信徒の皆さんや教区のおかけですごく思い出し、行ってよかったWYDとなりました。ありがとうございました。新居浜教会 小川麗子



ボランティアの高校生と高山神学生

はばたき
十字架上で「わたしは渴く」(ヨハネ一九・二八)と言われたイエスさまのみ言葉は、いつの時代にも、どこでも、どこまでも響いています。一人ひとりの人間の心の暗く寂しい空虚な場所、イエスさまは今も「あなたの愛に渴いている」と言っておられます。どんな人をも見捨てずに救いたいと望まれるイエスさまは下へ下へ、さ下に下へと降りてきてくださいます。ある日、イエスさまはマザー・テレサに頼られました。「私を貧しい人々の小さな家々に連れて行って下さい」と。最も貧しい人々が無視されていること、痛み、彼らご自分を知らないこと、悲しみ、そして彼らの愛を切望しておいでになるご自分の渴きをお示しになったのです。マザー・テレサはイエスさまの渴きを聖母と共に癒すためにその生涯を捧げました。マザーの言葉や活動は世界中の人々の心に触れ、神のいつくしみを示す証となりました。そして、今年の九月四日に列聖され、聖マザー・テレサとされました。私たちはマザーの列聖を心から喜び讃えています。マザーの言葉を聞きましよう。「あなたはイエスの渴きを感じますか？彼の声は聞こえますか？あなたは本当に彼の声を知っていますか？もしそうでないなら、あなたへの彼の本当の愛をまだ知らないのです。イエスの渴きを癒すために心を尽くしなさい。」(講話より)



Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 6108 資料図書費, 6109 会議費, 6110 接待交際費, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 6713 保守管理費, 6714 清掃費, 6715 営繕費, etc.

2015年度「高松司教区」本部会計 前年度比較 消費収支計算書 (自) 2015年4月1日 (至) 2016年3月31日

2015年度「高松司教区」小教区会計 前年度比較 消費収支計算書 (自) 2015年4月1日 (至) 2016年3月31日

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9601 納付金収入, 9602 分担金収入, 9603 特定献金収入, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9606 信徒通常献金収入, 9607 特定献金収入, 9608 特別献金収入, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9631 祭儀費, 9632 諸委員会活動費, 9633 宣教活動費, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9654 宣教司牧費, 9655 特定献金支出, 9656 納付金支出, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9671 特別収益の部 資産売却却益, 4602 固定資産売却益, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9671 特別収益の部 資産売却却益, 4602 固定資産売却益, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9687 特別費用の部 資産売却損, 7401 固定資産売却損, etc.

Table with 4 columns: Code, Item, 15年度, 14年度. Rows include 9687 特別費用の部 資産売却損, 7401 固定資産売却損, etc.

アウシュビッツを共に考えた 一徳島「歌って踊って平和を語ろう」



阿波踊りに繰り出した参加者たち

去る8月12日から13日、徳島教会において、恒例の「歌って踊って平和を語ろう」がなごやかに開催されました。テーマは「アウシュビッツと沖縄から考えるいのちと平和」。

徳島教会 今年もまた同じ思いで、行事を終えられたこと、そして、その場に私がいることが出来たことを神様に感謝していただきます。

『おめでとう』 9人が初聖体

6月26日(日)、丸亀教会においてカンバラ神父様や日曜学校の先生達から熱心に勉強を受けていた9名の子ども達が、初聖体のお恵みを受けました。

2日目は、アウシュビッツ絶滅収容所の動画と沖縄基地問題の映画『戦場ぬ止め(いんざはぬとどろみ)』の鑑賞と司教講話をもち、3つのグループに分かれて集いのテーマについて考えました。



初聖体を受けた9人の子ども達

教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 9月1日 to 9月30日 and various church events like '祈りの日', '世界環境デー', '聖母の月', etc.

子どもに伝えたい イエスに会う



熱く語るSr. 寺田

カトリック高松教区幼稚園連合主催の第44回職員研修会が、徳島県にて7月25日、26日、四国4県より81名の職員が参加し「子どもに伝えたいイエスに会う」というテーマで行われました。

第1日目は、聖ドミニコ会宣教修道女会、沖繩真栄原カトリック幼稚園園長のSr. 寺田陽子先生から「カトリック幼稚園教師の使命について」お話しして下さいました。子ども一人ひとりは違って当たり前、その子の背景にあるものを見極めて、子どもをまるごと受け止め無条件に愛し大切に育てていくこと。私たち教師は心の目をもって、

見えない大切なものを見抜く力を研ぎ澄ましていくこと。かけがえのないこの幼児期の子どもの、あなたは、あなただから素晴らしいことをつたえる。すべてにおいて愛し、愛された経験はその子にとって自信になり安心感が育っていくのです。2日目は、オフレート会、乾盛天神父より、「子育てに迷ったとき」をテーマに、子どもと向き合い、まわりの自然、環境を大切に育てていくこと、神さまから与えられた知的な子どもの求め、開かれた心になること。子ども、保護者、教師という関係性の中で子どもをよみとっていく技術を身につけていくこと、神さまから与えられた知的な子どもの求め、開かれた心になること。子ども、保護者、教師という関係性の中で子どもをよみとっていく技術を身につけていくこと、神さまから与えられた知的な子どもの求め、開かれた心になること。



神の愛に叶う教育について分かち合う

2日間の研修を通して、カトリック幼稚園で働く職員として神さまから委ねられた大切な子どもたちの、よりよい未来になるように願ひ、感謝のうちに研修会を終えました。 鳴門聖母幼稚園

マザーテレサから学ぶ 徳島で片柳神父様の講演会



コルカタでの経験を交え語る片柳神父

教皇フランシスコは2016年9月4日をマザー・テレサの列聖の日と決定。トリック信者として喜びも

お祈りや支援金に感謝

熊本地震の被災者から手紙

この度の熊本地震に際して、教区の皆様には、ご心配、お祈り頂き、また支援金送ってくださりありがとうございました。熊本の私の実家は人も家も無事でした。しかし、マールン病院の元職員で信者の旧姓大川原寛美さん宅が、震度7に二度襲われた、あの益城でしたので、自宅も息子娘さんの家もぐわのような状態になり、避難所暮らしが続きました。最近やっと仮設住宅があつたと、良い知らせが入りました。皆さんの募金は、福岡教区を通じて、彼女ら親子に手渡されました。感謝の手紙とともに写真をお届けします。 坂出聖マルチン病院 曾我部輝子



2度の大きな揺れで壊れた住宅のようす

この度は熊本地震において沢山のお心遣いをしていただき有難うございました。ご自宅での食事会もとても楽しかったです。実家やアパートに大きな被害を受けましたが、幸い家族は皆無事でしたので神様が守ってくださったと実感しています。失ったものは多く、元には戻りませんが、人の温かさ・命の大切さをとても感じています。まだまだ復興には時間とお金がかかり

人の温かさ、命の大切さを感じた

熊本益城 坂井寛美

ひとしておられる。いつも何かを考えておられるイスマエル神父。4月のある日「マザー・テレサの講演会か何かありませんか?」と、笑顔でいわれる。マザー・テレサと言えば片柳弘史神父。駄目元覚悟で「片柳神父に来て頂いて良いですか?」「いいですよ」と、感謝である。マザー・テレサの話を片柳神父から直接伺えるチャンス。が、はたして片柳神父は、徳島に来て下さるのかどうか。早速連絡を取る。片柳神父は、とても親切に対応して下さいました。

聖女マザーの活動に感動

丸亀の信徒ら 徳島で講演聴く



徳島教会にたどり着いた多くの巡礼者

の母の生き写しです。「悪な所での愛の実践が大切なことを話された。また、教母。マザーの真直ぐな性格と信仰も母からのもの。片柳神父は、家庭と身近に私、日々感じていること。マザー・テレサの話を片柳神父から直接伺えるチャンス。が、はたして片柳神父は、徳島に来て下さるのかどうか。早速連絡を取る。片柳神父は、とても親切に対応して下さいました。

丸亀教会 太田 修

海の日祭日、晴天に恵まれたわたくし達は久しぶりの観光バスの旅でした。数年前に三原教会に巡礼しましたが、今回は徳島教会でマザー・テレサ列聖記念講演会への参加と、阿南教会でミサに与るという大きな目的を持って集まりました。 徳島市から南へ約25キロの車窓から瀬戸内の海を眺めながら、隣の人の楽しげな談笑のうちに徳島教会に到着しました。 イスマエル神父様や徳島教会の皆様は温かく出迎えて頂き、また、久しぶりに出会う他教会の友人達と挨拶を交わした後、10時から待望の講話が始まりました。現地カレッジでマザー・

丸亀教会 太田 修 TSCでは当面の支援を左記、福岡教区の支援窓口と、カリタスジャパン、「熊本地震」緊急募金受け付け窓口へ直接、個人あるいは団体での寄付をお願いします。 福岡教区 福岡中央銀行金尾支店 口座番号・(普通)1076206 加入者名・宗教法人カトリック福岡教区 代表役員 宮原良治 送信者の名前のあとに「クマモトシンシエン キン」と書いてください。 カリタスジャパン 郵便振替番号00170506979 加入者名・宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン 通信欄に、「熊本地震」と明記ください。 TSC高松教区サポートセンター 東日本大震災大船渡支援 献金入金報告(含米券) (7月1日~8月31日分として) 8万2000円 累計(8月31日現在) 1千706万2687円

Advertisement for St. Dominic's Missionary Sisters, featuring a photo of a group of women and the text '神を觀想し、その実りを人々に伝えよ'.

Advertisement for 'Hoshizuki Gakuen' (星の学園), featuring a photo of a child and text about education and faith.

編集後記 NASA(アメリカ航空宇宙局)が今夏の猛暑を観測史上最高になると予想していましたが、実際はともかく暑い暑い夏でした。マザー・テレサの列聖の吉報と共に朝夕は恵みの涼しさとなり、今月19日は高松教区司教の叙階式、来年は高山近列福式、そして春には京都教区としての最大の祝いとなる司教・助祭叙階式を控えています。その恵みの時を心ゆく迎えることが出来るようにしたいものです。(J)